

病害を防ぐ！さといもの種芋消毒法

令和5年2月
さといも振興研究会

- ・さといもの健全な生育を確保するためには、植え付け前の「種芋消毒」と「薬剤散布用通路の確保」が重要です。
- ・サトイモ疫病は、種芋に潜んでいる菌による発病が大きな原因の一つと考えられます。
- ・疫病に感染した種芋は、土中で腐敗して芽が出なかったり、出芽しても親芋等が腐敗し、収量が低下します。
- ・今年度もサトイモ疫病を含む病害対策にご協力をお願いいたします。

効果的な種芋消毒のポイント

1 芋の表面についた土をよく落とす！

病原菌は芋の表面に付着した土からも検出されています。

2 水に浮く芋は捨てる！

水に浮く芋は病原菌に感染していることが多いです。

3 ベンレートT水和剤20で種芋消毒！

農薬登録内容を守り、確実に種芋消毒をしましょう。

1 種芋洗浄・消毒の手順

① 種芋選別

腐敗や変色、割れのない健全な芋を選ぶ。



② 種芋洗浄（土落とし）

ケミクロンG 50,000倍希釈液（10Lあたり0.2g）に種芋をコンテナごと入れ、上下に振り洗いする。



水に浮く芋は捨てる

③ 種芋消毒

ベンレートT水和剤20の20倍希釈液（10Lあたり500g）に1分間浸漬処理する。薬液は1日で使い切り、翌日に持ち越さない。



④ 定植（消毒後早めに）

◆ コンテナ1ケースあたり、60g程度の種芋が約150~200個入ります。

10 a当たりの種芋数2,000個の場合、10~15回程度の洗浄・消毒で済みます。

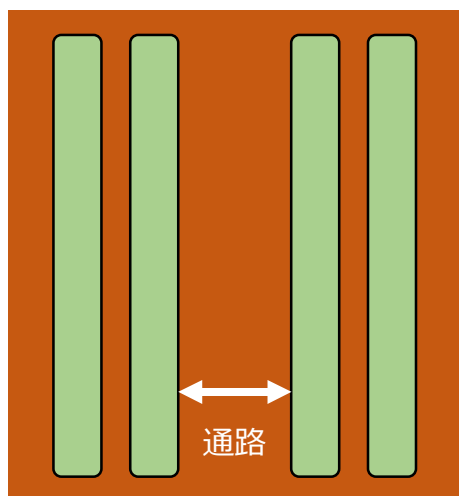
◆ 種芋消毒動画（Youtube）：<https://www.youtube.com/watch?v=5JFij11PkEE&feature=youtu.be>

2 薬剤散布用通路の確保

- 鉄砲噴口による薬剤散布で薬液が十分に付着するのは、通路から5mほどの株までとなる。
- このため、10mおきを目安に1畝分植え付けしない畝を設け、薬剤散布用の通路を確保する。

(所有する動力噴霧機、散布ノズルに合わせて通路の間隔を調整する)

(さといもほ場)



畝を1本分空ける
(通路幅1~2 m程度)



- 省力的に薬剤散布できる。
- 薬剤散布の効果が高まる。

お問い合わせ先

川越農林振興センター 農業支援部

☎049-242-1804

※令和5年1月25日現在の農薬登録情報に基づき作成しています。

※農薬使用時は ①必ず農薬ラベルを確認 ②飛散防止に努め ③農薬使用記録簿をつけましょう。